



Title	英国の一都市における公衆衛生活動から
Author(s)	長谷川, 豊
Citation	大阪公衆衛生. 1966, 18, p. 17-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84437
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

英国の一都市における 公衆衛生活動から

長 谷 川 豊

はじめに：

うっかりお引き受けしてしまったものの、与えられた「海外から見た大阪の公衆衛生」という壮大なテーマは、私のような、一保健所に6年程ただけで、“大阪の公衆衛生”と云う巨象の爪の垢ほどのことも理解できていないものが到底、書く柄ではありません。

それで私と致しましては、海外の公衆衛生活動の資料を提供して、大阪の公衆衛生について、遙かによく理解されている読者諸先生方の比較検討の材料の一端として、多少なりともお役に立つことが出来ますれば、誠に幸甚に存ずる次第です。

————— × × × —————

バーミンガムはロンドンから北へ汽車で2時間ばかり、人口115万の自動車工業などを中心とする工業都市です。郊外の落ちつきとは対照的に、老朽化した中心街は再開発の真最中で、新旧のビルが入りまじり、日本の大都市に似た雑然さです。

ここにもやはり、住宅難、災害、青少年非行の増大など大都市共通の苦悩があります。

§ バーミンガム市衛生局 (Public Health Department) の業務

ら列しますと、予防接種、結核予防、母子衛生訪問活動（退院患者訪問を含む）、家庭看護、ホームヘルパー活動、精神衛生、助産婦活動、衛生教育、衛生統計業務、救急サービス、孤児、盲人脳性小児マヒ、てんかん患者保護援助、食品、薬事、環境衛生監視など。日本より福



バーミンガムの汽車の駅の一つ

祉面へのウェイトが感じられます。

§ ス タ ッ プ

総数、常勤 2,669 人、非常勤 992 人、主な職種についてその数を掲げると、医師、常勤 37、非常勤 6、保健婦 (Health Visitor)、常勤 120、非常勤 9、助産婦、常勤 127、非常勤 20、地区看護婦、常勤 158、非常勤 38、ホーム・ヘルパー、常勤 93、非常勤 855、監視員 143、事務現業員 749 など、人口とにらみ合せると、日本はまだまだ足もとにも及びません。

この充実したスタッフによる重点事業として次の 3 つが挙げられます。

1. 母子センター (Maternity and child welfare centre) での Clinic Service
 2. Health Visitor の訪問活動
 3. Inspector の監視活動
1. 母子センターは、52 あり年間の Clinic、開設回数は、妊産婦、乳幼児あわせて実に 7,446 回 (1 ケ所当り年 143 回)、受診件数延 183,810 人に及びます。保健婦あるいは助産婦のみによる指導が、このうちの半数近くを占め、特に妊婦の指導は殆んど助産婦によって行なわれます。

担当医師は、衛生局の医師 (Medical Officer) の場合と、一般開業医 (General Practitioner) の場合とあって、後者によるものは約 25% です。

一回のクリニックでの医師の診察数は 10~13 人で極めて濃厚綿密なサービスが期待できます。

看護婦は、Home Nurse (or District Nurse) が参加します。

利用率を見ますと、年間 6 回以上利用者が、乳児で 35.5

%, 1 才児で 26.7% あります。

2. Health Visitor の訪問活動

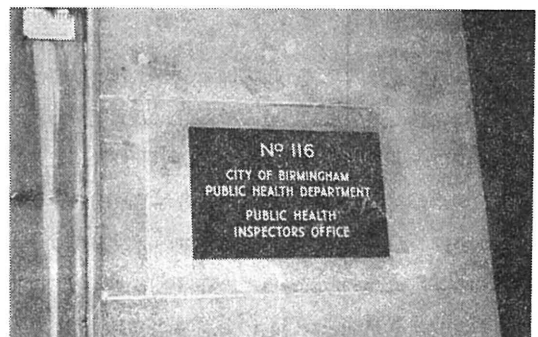
Health Visitor は、家庭や小集団の中に入って行って、健康教育や助言を行なう Medico-social Worker であると、定義されています。

そして英国の Health Visitor は Family Doctor や District Nurse と手を組んで、National Health Service の一つの大きな柱となっています。

実際に地域で訪問活動を行なっている Health Visitor は 116 名で、年間訪問件数 240,231 件 (Visitor 1 人当り 2,071 件) に及びます。その内訳は、乳幼児が 227,826 件 (1 人当り、1,964 件)、妊産婦、4,983 件 (1 人当り 43 件)、その他、老人、成人病、精神障害者、伝染病、退院患者、等が 7,422 件 (1 人当り 64 件) です。結核は、別に結核専門の Visitor が 12 名います。年間訪問件数 28,609 件 (1 人当り 2,384 件)。毎日平均 10 件近い訪問をしている訳で、全く驚くべき活動ぶりです。

なお Health Visitor の仕事のひとつとして、乳児家庭を訪問した時には必ず、フェニールケトン尿症の検査を実施しています。1963 年には、21,909 人の乳児について検査を行ない、2 名の患者を発見しました。これらの乳児が家庭において、きちんと治療食をとるよう指導管理するのも、担当の Health Visitor の業務となっています。

なお、参考として District Nurse の業務に触れますと、この人達は、病院や Family Doctor の手足となって、家庭にいる患者や病弱者の看護を行なうのですが、最近病院のベッドの極端を不足から、手術後の患者を極めて早期に退院させる傾向が強くなり、District Nurse の活動への期待が更に高まっています。



バーミンガム市衛生局監視員のオフィス

3. Inspector の活動

先述の143名の Inspector のうち39名は Pupil Inspector です。これはまだ学生で、週 2 日 Technical College へ 4 年間通って卒業すれば正式の Inspector になることが出来ます。Inspector の甚しい不足のため、どこともこのような養成法をとっています。

Inspector は Housing Inspector, Smoke Inspector, Milk and Dairies Inspector 等の専門 Inspector もいますが、大半は、District Inspector と呼ばれる人達で、受持地区のすべて、Housing, Smoke, Food を問わず、監視しています。その District Inspector は、46名、別に Pupil District Inspector が33名いますが、年間監視数223,626 と云う数字があります。

National Health Service Act の下で、バーミンガムの衛生局は、以上のようなすぐれたサービスを行なっているのですが、一般医は、この National Health Service が極めて不満のようで、N.H.S を去って行く一般医 (General Practitioner = G.P.) を少なくないようです。私のバーミンガム滞在中にも、N.H.S を逃げ出した Doctor のことが、大きく新聞に出ていました。11日前 N.H.S を去った “Rebel” Doctor の Private Health Scheme に早や1,000名の加入者があって、その Doctor は「前よりずっと少なく働いて、同じ収入が入るので極めて満足だ」と、記者に答えています。N.H.Sの時、3,000人の登録患者を受持たねばならなかったのです。

大英帝国の悩みは果てなし、と云った所でしょうか。
(数字は全て “Report on the Health of Birmingham in 1963” による)

《はせがわ・ゆたか 大阪府吹田保健所保健予防課長》